

【研究課題名】

中型から大型の転移性脳腫瘍に対する摘出術＋術後定位放射線手術と２段階定位放射線治療手術の比較研究：傾向スコアマッチング解析

研究の概要：

近年の相次ぐ新規分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤の登場により進行癌患者の生命予後は大きく改善し、転移性脳腫瘍に対する治療方針の考え方も大きな変革の時期を迎えています。中型から大型の脳転移に対しては現在も外科手術や放射線治療が腫瘍な役割を担っていることに変わりありません。神経症状を改善させることは生命予後を左右するだけでなく QOL にも大きな影響を与えることから、病巣を制御しつつ良好な神経機能を維持することが臨床的に大変重要です。近年、脳腫瘍摘出術後に摘出腔に対して術後照射を全脳照射ではなく定位照射で行う一つの潮流となっています。これにより全脳照射の神経毒性を回避することが期待される一方、問題点として髄液播種が比較的生じやすいということが臨床的課題とされています。一方、比較的大きな腫瘍に対して開頭手術を行わず定位照射を２段階に分けて行う新たな治療法の有効性が複数の施設より報告され国際的にも徐々に認知されつつあります。これらの治療法のどちらがよりよい臨床結果が得られるかという臨床的疑問に答えるのが本研究の目的です。

研究対象：

2010年9月から2019年12月までに相澤病院ガンマナイフセンターにて、転移性脳腫瘍に対して、次のいずれかの治療（①摘出術後の摘出腔に対する予防的定位放射線治療、②初回治療として２段階定位放射線治療）を行った患者さんの診療録を対象とします。

研究の意義：

上記①と②の治療を比較して、どちらの治療方法が頭蓋ない病巣を制御しつつ長期の生存期間を維持することができるかを明らかにすることは、今後治療法を選択する際の一つの指標となり、治療成績の向上に寄与すると考えられます。

研究の目的：

上記①と②の治療を比較して、どちらの治療方法が頭蓋ない病巣を制御しつつ長期の生存期間を維持することができるかを明らかにすることです。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては研究責任者がこれを行います。後方視的研究ではそもそも異なる治療法の2群間の臨床的背景には明らかな差が介在するため、この差違を最小化するために傾向スコアマッチングという解析手法を用います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 がん集学治療センター ガンマナイフ
センター 四方聖二

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763